

# 中央病院ってどんなところ？

市立中央病院が現在の場所に移転開院してから20周年を迎えました。市内で唯一の総合病院として、市民の皆さんに愛される病院を目指し運営されています。今回は富士市立中央病院についてお知らせします。



昭和三十四年三月、現在の本市場に「富士町立富士中央病院」として開設。当時は、診療科目五科で病床数は九十九床でした。翌二十五年には、耳鼻咽喉科が開設。そして、昭和三十九年四月に名称を「富士市立富士中央病院」と改称しました。その後皮膚科、気管食道科、放射線科が次々と開設し、昭和三十七年、「総合病院市立富士中央病院」となりました。このときの診療科目は九科でした。

昭和五十九年八月には現在地、高島町へと新築移転し「富士市立中央病院」と改称。診療科目十八科、病床数五百二十床と大幅に変更されました。昭和六十一年には精神神経科が開設。平成三年十二月には新館が完成。平成九年心臓血管外科開設、平成十五年四月神経内科常設、同年五月歯科口腔外科が新開設されました。このように、科

■ 地域医療を支える病院として

の増設や増床を繰り返し、地域医療を支える病院となりました。

■ 優しい医療を目指して

現在、中央病院は診療科目二十二科、病床数五百九十六床（一般五百八十床、結核十床、感染症六床）です。平成十五年度の患者数は、外来患者が一日平均で約千三百人、入院患者数は約四百六十人です。

急性期医療機関として「患者さんにやさしい医療」を目標に日々向上の努力を続けています。また、市民の皆さんからのご意見・ご提案を取り入れるため、投書箱を設置しています。

症状の変化が急激にあらわれ、発症間もない患者さんへの医療

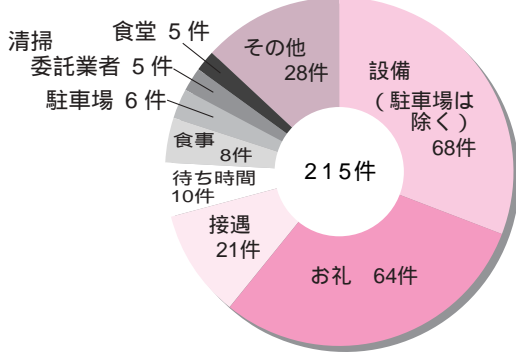


# 病院へ寄せられたご意見・ご提案

市民の皆さんが、より一層利用しやすい病院にするため、患者さんや来院者から意見、要望、苦情などを院内の投書箱で受け付けています。内容により、各部門に改善と回答を求め、「お返事」として院内に掲示しております。また、病院ホームページでも見ることが出来ます。

ご意見・ご提案の総数は、平成十三年度が百七十七件、平成十四年度が百六十四件でした。平成十五年度は、お礼の投書が大幅にふえました。医師、看護師に対するご意見はもちろん、食事に関することなど他職種に対するお礼の声があふえています。また設備についての要望も多く、大半が新規設備の導入に対するものです。接遇については、平成十三年度と比較すると減少傾向ですが改善を求める声があります。

## 平成15年度 ご意見・ご提案詳細



## ご意見・ご提案 3 か年比較グラフ

年度	お礼	接遇	設備	待ち時間	駐車場	清掃	その他
平成13年度	21%	18%	18%	5%	3%	7%	28%
平成14年度	21%	10%	23%	6%	6%	5%	29%
平成15年度	30%	10%	31%	5%	3%	2%	19%

お礼
  接遇
  設備
  待ち時間
  駐車場
  清掃
  その他

### 外来受付時間

毎週月曜から金曜、八時～十一時  
(診療開始は八時三十分から)

休診 土曜・日曜・祝日

### 面会時間

平日 十五時～十九時  
土曜・日曜・祝日 十三時～十九時

### 救急外来

診療所や救急医療センターなど一次救急医療機関の医師や救急隊員などにより、「入院治療を必要とするような重傷患者」と判断された人が搬送される二次救急医療機関です。

### 診療科案内

診療科は次の通りです。

内科(呼吸器、代謝一般、腎)、小児科、外科、整形外科、リハビリテーション科、脳神経外科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、形成外科、泌尿器科、麻酔科、精神神経科、循環器科、心臓血管外科、**神経内科、歯科口腔外科**

### 神経内科とは

しびれ、力が入らない、めまい、頭痛など、さまざまな神経症状の原因を検索し、治療していく診療科です。具体的には脳梗塞などの脳血管障害、パーキンソン病などの変性疾患、手足のしびれを示す末梢神経障害、そのほかにも多発性硬化症、種々の脊髄疾患、多発筋炎などの炎症性筋疾患を中心に診療を担当しています。

### 歯科口腔外科とは

口腔やあごならびに隣接組織にあらわれる病気に対する診断や治療を行う診療科です。歯科医院では困難な抜歯や口のできもの、あごの骨折、炎症(腫れもの)、顎関節症、顎変形症などの一般的な口腔外科的疾患のみならず、いびきや睡眠時無呼吸症候群の歯科的治療などを行っています。ただし、特別な場合を除いて、一般的な歯科治療(入れ歯や詰め物)は診療いたしません。



急性期病院のため、なかなか受診することのない中央病院。そこで今回、まちかどネットワークの渡辺真一郎さん（中央町二）に模擬受診として、受け付けから会計までの流れを体験していただきました。左ページの配置図と一緒に、ごらんください。

中央受付

2



診療申込書に記入後、保険証と一緒に中央受付・番窓口へ提出。受け付けが終わると、カルテとファイル(受診票・診察券)が手渡され、案内や説明が行われます。

診療申込書記入

1



記載台に置いてある診療申込書に必要事項を記入し、受診する科を選びます。受診する科がわからないときは、中央受付番窓口で看護長に相談してください。

受診科受付

3



中央受付で受け取ったカルテとファイルを提出し、受付前の待合で名前が呼ばれるまで待ちます。

診察室

4・7



中待合に呼ばれた後、受診となります。検査・レントゲンなどがある場合、再度診察を受けます。診察終了後、受診科受付にて診察券を受け取ります。

レントゲン受付

5



診察室でファイルを渡されます。それをレントゲン受付に提出、受付票を持ち、名前が呼ばれるまでレントゲン室の前で待ちます。

薬局

9



領収書の半券に薬の番号が記入されている場合、薬があります。半券を切り取り、電光掲示板に番号が表示されたら、薬局に提出してください。

会計

8



会計は窓口と3台ある自動支払機で行えます。不明な点は係員がいますので、聞いてください。15時以降は窓口のみとなります。

レントゲン室

6



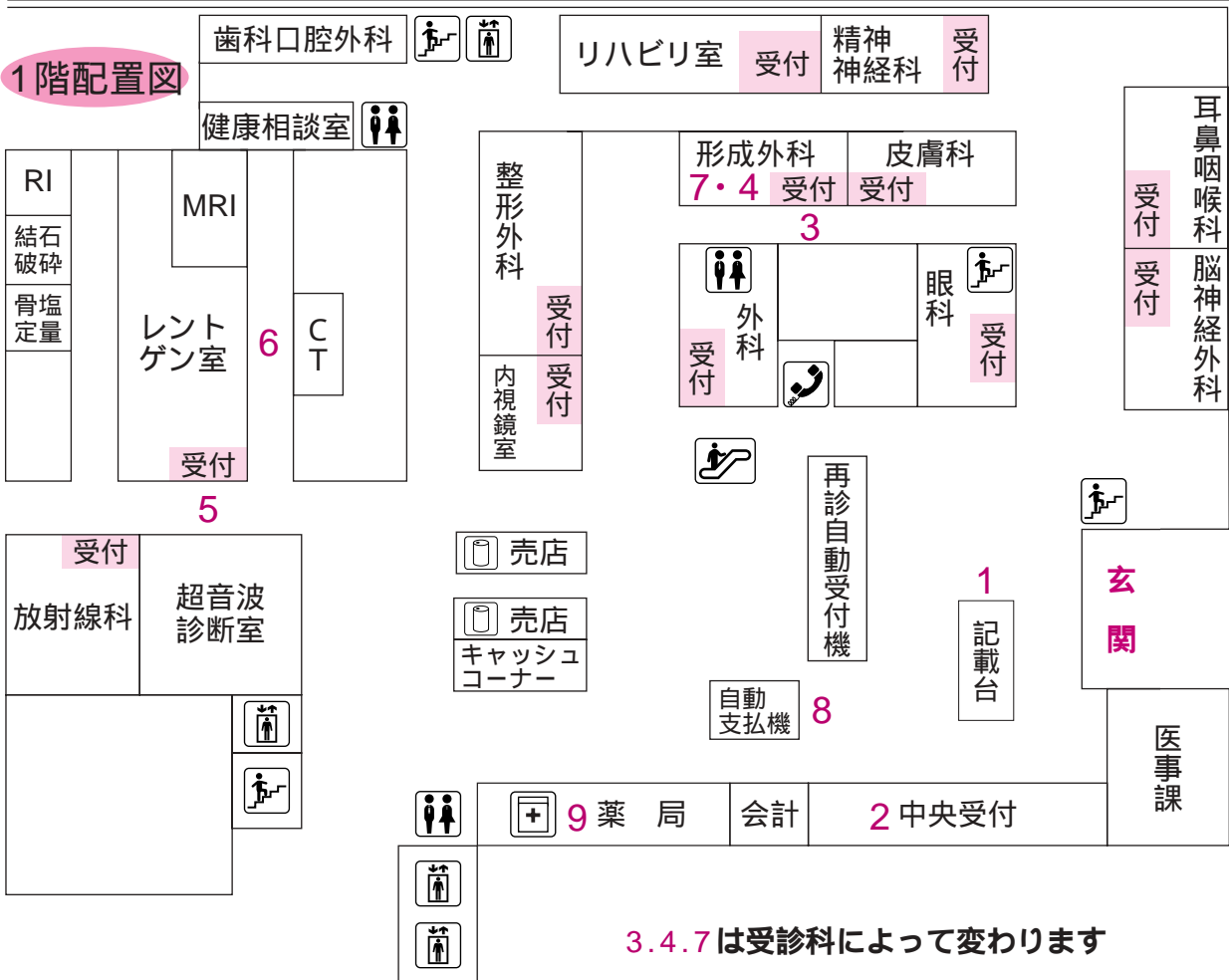
受付票を技師に提出後、撮影となります。撮影後、受付にてレントゲン写真とファイルをもらい、受診科で再度診察を受けます。

- ・ 保険確認のため、毎月最初の受診日には保険証を提示してください。
- ・ 最後の受診から三か月が経過すると初診料がかかります。
- ・ 診療所などの紹介状がない場合、特定初診料として千五百円がかかります。
- ・ 再診の場合、再診自動受付機に診察券を入れ受け付けてください。ただし受診科を変更する場合は初診時と同じ手続となります。

二十年以上たつとは思えません。院内のスペースの広さには感心しました。その分、受診科に行くまで距離を感じました。中央受付での案内が丁寧なので迷うことはありませんが、診療所と違い、受診科が近くにないのは意外でした。建設して二十年以上たつとは思えない清潔さや最新設備が整っている雰囲気は伝わりました。診察券一枚で受診から検査、支払いまでできるのには驚きです。市東部にも、同じような総合病院ができればいいと思いました。



模擬受診の体験を終えた渡辺さん



富士市立中央病院  
結城研司院長

**市民の皆さんに愛される病院**

市民の皆さんに支えられた病院

昭和五十九年の移転当時、市民の皆さんから診療科や医師のことなど多くのご意見をいただいたおかげで、今日の中央病院があります。

地域密着型の医療機関として、受付案内業務のボランティア、車いすなどの修繕を行うボランティアの皆さんに支えられながら、「市民の皆さんにより良い医療をやさしく安全に提供し、常に医療の向上に努める」ことを理念として職員一同努力しています。また、毎年、病院指針を職員から募集し定めています。これは「良い医療のための意識変革しますか？」に決まりました。これを念頭に置き、職員一丸となって仕事に取り組んでいます。

医療の充実を図っています

平成十五年には、ご要望の多かつ

た神経内科の常設と歯科口腔外科が新設され、もうすぐ二年がたとうとしています。多くの皆さんが来院し、早期治療に役立っています。

最近では、医療機器の更新も順調に進み、レントゲン機器のデジタル化、二台目の新型MRIの導入、老朽化した医療機器の更新と、最新の機器に衣がえの努力をしています。

また、医師数が減少しており、特に消化器内科の医師は全国的に不足しています。現在、手配をしているのですが厳しい状況にあります。ご要望の多い、午後外来や来院してすぐに受診ということも、十分な医師の数があればできるのですが、現在は困難な状態です。

だれでも利用しやすい病院を

混合診療解禁の話や、医療制度の目まぐるしい変化などがありますが、常に市民を守る病院でありたいと考えております。そして、いざというときに頼りになるような病院づくりを今後も目指していきたいと思っております。病院をよりよく、皆さんが利用しやすくするために、各階につき、投書箱を設置してあります。メモ用紙でも構いません、病院についてのご意見、ご提案をお寄せください。

問い合わせ 中央病院総務課 055-211-3111  
http://fujishi.jp/byoin/055-211-3111